

寛容かつ厳しい教育者、研究者としてのボズウェル先生

椎名 紀久子

千葉大学の外国語教育をつかさどる司令塔として、1994年に現在の言語教育センター（旧・外国語センター）が設立されました。ボズウェル先生と私はその年に一緒に就職し、以来15年間、共に9学部の学生に対する英語教育をはじめ、人文社会科学研究科（旧・文学研究科）の大学院生（英語教育・第二言語習得・国際化教育などを目指す現職教員や院生）の指導に取り組んできました。ここでは教育者として、また研究者としてのボズウェル先生について、心に残ったことをお話します。

教育者として：英語インテンシブクラスの設置

千葉大生のなかには、将来、海外留学や国際的な機関や企業に就職することを目指す高い英語力を持つ学生がいます。これらの学生が将来英語圏の大学の講義を理解し、質疑応答し、ネイティブの学生とも臆することなくディスカッションができるようになって欲しいと、ボズウェル先生と相談して「英語インテンシブクラス」を立ち上げました。現在それは「上級英語」、「中級英語」という英語科目として10年近く続いています。私は英語圏の大学で必要なリスニング力・読解力・レポート作成力・口頭発表力育成のクラスを担当し、その実践編としてボズウェル先生に米国の大学教授役で英語の講義（例 米国の医療制度と医学教育）を依頼しましたが、快く引き受けてくださいました。日本の企業で働いた経験のある彼は、ホットでクリティカルな時事問題を中心にディスカッションするクラスも担当し、学生の人気を集めたことは言うまでもありません。インテンシブクラスでは放課後に英語でネイティブスピーカーの先生と軽食を取りながら自由におしゃべりをするイングリッシュ・スピーキング・パーティを毎学期に2回ほど開きましたが、そんな時も彼は中心的な存在となって学内のネイティブスピーカーを集めてきてくださいました。今でも本当に感謝しています。

妥協を許さない研究者

ボズウェル先生とは応用言語学関連の世界大会で二度ほど共同研究発表をしました。2002年に米国Utah州ProvoにあるBrigham Young Universityで発表した時のことです。Utah州出身のボズウェル先生は私や他の日本人の先生をSalt Lake Cityの空港までレンタカーで迎えに来てくださり、その南72キロにあるProvoという町を懐かしそうに案内してくださいました。“Using Interactive Media in Presenting Children’s Narratives: Enriching the Context for the Acquisition of Communicative Skills in the Second Language”と

いうタイトルの発表でしたが、直前まで発表内容の打ち合わせを厳密にして、妥協を許さない姿には頭の下がる思いでした。帰国時にはアリゾナ大学でのワークショップに参加して研修した内容を授業に生かして結果を分析するなど、研究と実践を見事に融合することのできる貴重な研究者・教授者でした。

さいごに

ボズウェル先生が定年とは言え千葉大学を去ることは、千葉大学の英語教育にとって大きな痛手です。しかし学生の意思を尊重しつつも厳しくじっくりと指導する態度は、私たちへの大きな遺産として残っていくことと思います。定年後も末永く私たちの相談に乗ってくださることを願っています。